農村の魅力を発掘・発信するための ICT の活用

The use of ICT in order to discover and disseminate rural charm

○溝口勝・伊藤良栄
MIZOGUCHI Masaru, ITO Ryoei

1. はじめに

少子高齢化の進行に伴い日本の農業農村が大きく変貌しようとしている。こうした中、農村を維持し、日本の農業を持続的に発展させるには、農村の魅力を発掘し、その魅力を都市住民に伝えるためのツールが必要である。

農業農村情報研究部会は 2004 年 10 月に発足して以来、勉強会や企画セッションを実施してきた。発足当初は農業水利施設管理に関する情報利用の話題が多かったが、最近は、農業農村を活性化するゲームアプリの可能性[1)](2016 年 3 月勉強会)、若い世代を対象とした農業農村教育とコミュニケーションツールの活用[2)]（2016 年 8 月企画セッション)、地域の魅力発掘と情報発信ツール[3)]（2017 年 3 月勉強会）など、SNS を利用した教育ソフトやツール開発の可能性に焦点をあてた会合を多く開催している。

そこで、今回の企画セッションでは、今年 3 月の勉強会のテーマをさらに発展する形で、地域の魅力発掘と発信に焦点を当て、国内外での取組の事例報告に基づいて、Facebook, LINE, Twitter 等の SNS を活用して都市と農村をつなぐ方法について議論したい。

2. 農村の魅力を発掘する試み

農林水産省農村振興局は、2016 年 7 月に「農村振興局 Facebook[4)]」を公開した。（最初の投稿は、東京大学農学部の「上野博士とハチ公像」の前で撮影された動画である）。公開以降、このページには農村振興局からのお知らせをはじめ、写真や動画が投稿されている。この中には農業農村工学分野に関係する項目も数多く見られる（Table.1）。

例えば、3(3 分でわかる！農業農村の整備)は、昨年の当研究部会企画セッションで紹介された動画[5)]である。また、2（日本の水と疏水）や 8（～土地改良区の役割）、9（シリーズ多面的機能）、14（水土を守る人々）のような教育的な記事がある。その他に、4（インフラメンテナンス大賞）, 12（疏水のある風景写真コンテスト）, 13（農業農村整備優良地区コンクール）のようなイベント情報が掲載されている。

Table.1　農村振興局 Facebook[4)]の主な記事

	公開日	記事
1	2016/7/22	農村振興局フェイスブックを開設
2	2016/7/29	日本の水と疏水
3	2016/10/7	3 分でわかる！農業農村の整備
4	2016/11/28	インフラメンテナンス大賞募集
5	2016/12/2	第３回ディスカバー農山漁村の宝
6	2016/12/5	世界かんがい施設遺産の恩恵を受けて
7	2016/12/7	特色のあるため池の紹介
8	2016/12/22	～土地改良区の役割
9	2016/12/28	シリーズ多面的機能
10	2017/3/22	～世界かんがい施設遺産紀行
11	2017/3/25	農山漁村ナビ
12	2017/3/29	疏水のある風景写真コンテスト
13	2017/3/31	農業農村整備優良地区コンクール
14	2017/4/4	水土を守る人々
15	2017/4/18	日本ダムアワード 2016

イベント情報の一つとして「ディスカバー農山漁村（むら）の宝[6)]」という農村振興のための表彰制度への募集がある。これは、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、新たな需要の発掘・創造や埋もれていた地域資源の活用を行うことにより活力創造につながる優良な事例を Table.2 のような取組から選定し、表彰するものである。

[1] 東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo,
[2] 三重大学生物資源学部 facutry of Bioresources, Mie University
キーワード：農業農村教育, アウトリーチ, ゲーム, コミュニケーション, スマホ, SNS

Table.2　「ディスカバー農山漁村の宝」の選定対象

①　美しく伝統ある農山漁村を次世代へ継承する取組

歴史的景観、伝統、自然等の保全・活用を契機とした農山漁村活性化を図る取組、消費者や住民のニーズを踏まえた都市農業の振興に関する取組

②　幅広い分野・地域との連携により農林水産業・農山漁村を再生する取組

６次産業化、農福連携、震災復興、都市と農山漁村の共生・対流を推進する取組、女性・高齢者の活躍する取組

③　国内外の新たな需要に即した農林水産業を実現する取組

学校給食等食育を推進する取組、農山漁村に外国人観光客を呼び込む取組、農林水産物の輸出に向けた取組

3. 話題提供者の講演概要

この企画セッションでは、以下の方々に講演を依頼した。その講演概要は以下のとおりである。

(1) 農村の魅力を発掘・発信するための ICT の活用

溝口勝（東大）

この企画セッションの趣旨を説明する。

(2) 与謝野町における新しい農業モデル確立プロジェクト　　井上公章（京都府与謝野町）

与謝野町は京都府北部の丹後半島に位置し、コシヒカリが古くからその品質を評価されてきた稲作地帯である。おからを主原料とした有機質肥料「京の豆っこ」を製造して稲作に使用するなど自然循環農業に取り組んでいる。しかし若年層の減少が著しく、後継不足や近隣の天橋立への負荷といった課題を有している。町では ICT に着目し、『与謝野新しい農業モデル確立協議会』を平成25年度に立ち上げ産官学連携の取組を始めた。

(3) セグメント化による情報発信戦略～農村から全国へ　　奥田裕久（特定非営利活動法人サルシカ）

三重県への移住促進などを目的とし、2008 年に Web サイト「サルシカ」を開設した。「薪ストーブ」「秘密基地」などは、その際に策定した検索キーワードであり、セグメントである。セグメント化されたマニアックな発信と、メディアミックスによる情報拡散これがサルシカの情報発信戦略である。その結果、三重県観光協会が運営する「観光三重」よりも多く閲覧され、既に全国からの移住者が 20 名を超える成果をあげている。

(4) 台湾における農村情報発信の取組

鬼塚健一郎（京都大学）

定住人口や交流人口の確保に向けて、農村地域の魅力を伝える情報発信が重要な課題である。近年は ICT の進歩・普及が著しく、いつでもどこでも簡易に情報発信や交流を行うことが可能となっている。同時に、情報が氾濫するなかで、農村地域の情報の一元的な集約や魅力的なコンテンツが必要とされる。本報告では、台湾政府による農村情報発信の取組を事例として、その内容や構成を整理し、我が国への示唆について考察する。

(5) 農山漁村地域の役割を学ぶ教育ゲームの開発

櫻井靖士（農村振興局農村政策部農村計画課）

農村計画課農村政策推進室はこれまで農水省の各種表彰制度で表彰された優良事例団体を１つの WEB サイトに整理し、地域間同士の横の連携を推進する目的で「農山漁村ナビ」を公開した。このナビに多くの方を誘導するおまけとして、農業農村のインフラ施設を忠犬ハチと上野博士が冒険する PC ゲーム「農山漁村を行く！」を開発した。

4. おわりに

Facebook, LINE, Twitter 等の SNS はいまや若者にとっては必須アイテムである。これらのアイテムを使えば農業農村の魅力を発見したその瞬間に写真や動画でその魅力を世界中に発信できる。原発事故後の地域復興を考える場合にも同様にこの手法が使えるだろう。このセッションではそのための新しいアイディアを共有したい。

参考文献

1) 農業農村研究部会：第 33 回勉強会：農業農村を活性化するゲームアプリの可能性，http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/meetings/anounce-33.htm
2) 農業農村研究部会：企画セッション 17：若い世代を対象とした農業農村教育とコミュニケーションツールの活用，http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/meetings/16kikaku.htm
3) 農業農村研究部会:第 34 回勉強会:地域の魅力発掘と情報発信ツール，http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/meetings/anounce-35.htm
4) 農林水産省農村振興局：https://www.facebook.com/nouson.maff
5) 横川華枝:YouTube を利用した農業農村整備広報の試み，H28 農業農村工学会大会講演会講演要旨集[S-17-6]
6) 農林水産省：ディスカバー農山漁村の宝，http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html